



国ふえす2012 in Koka
ひろげようSmile♪

市国際交流協会が主催する「国際交流フェスタ」が12月2日、碧水ホールを会場に開催され、およそ800人の参加者でにぎわいました。

このイベントは、今年8年目の開催で、市内の団体や個人が協力して実行委員会をつくり、市内にも多くお住まいの外国人の異文化を知り、交流し合って理解を深めようと企画されています。会場には、各団体や園ごとに分かれたブースが並び、各国自慢の料理や民族衣装などが用意されました。また、ボランティアなどを行う団体は日本語教室など普段の活動が紹介されており、ステージや前庭ではダンスやジャズの演奏で会場に訪れた方たちが和やかに楽しむ光景も見られました。

国際交流フェスタ



▲フィナーレは合唱で心をつつ

昔ながらのきねつき餅を
親子で楽しんで

貴生川認定こども園
親子餅つき大会



▲つくたてのお餅はおいしいなあ

貴生川認定こども園の親子餅つき大会が12月8日、同園で行われ、5歳児とその保護者263人が参加しました。

この日は、昔ながらのきねつき餅を親子に楽しんでもらおうと地元老人クラブの皆さんも特別参加しました。歓声のなか、慣れない手つきでつきあがった餅は、さっそくきな粉もちやおろしもちにされ、園児たちはおいしそうにほおばっていました。

甲賀伊賀の忍者のまちが
竜王アウトレットパークでPR

甲賀伊賀の忍者のまちが連携した観光PRイベントが11月25日、竜王町の三井アウトレットパークで行われ、忍者姿に扮したスタッフやゆるキャラなどの出迎えは、買い物客をよるこぼせました。

会場では、手裏剣作り体験や、手裏剣投げ体験などが行われ、中でもゆるキャラによるステージショーには小さな子どもたちが詰めかけました。

ショーを鑑賞していた皆さんの中には、市外、県外だけでなく東京や広島など近畿圏以外から来られた方も多く「そういえば新名神高速は甲賀を通っていますね。せっかくなんで寄って帰ろうかなと思います。」と話される方もあり、忍者からのPRは早速効果が現れていました。



▲人だかりのできるゆるキャラショー

消防士さんと避難訓練で「地震」を体験

朝宮保育園起震車体験

消防学校が所有する起震車「グラグラ号」が11月28日、信楽町の朝宮保育園を訪問し、全園児12人が信楽消防署員の指導のもと避難訓練を行い、地震の揺れを体験しました。

起震車の派遣は、幼いころから防災の基礎を身につけることを目的に活動する幼年防災クラブ事業の一環で実施されています。

消防署員から、地震がきたら揺れが収まるまで机などの下で身を守るようにとの話を聞いた後、園児たちは代わる代わる揺れを体験しました。震度5強に設定された「グラグラ号」では、小さな腕で机の脚にしがみつき、揺れが収まるのを待っていました。園児らは「本当の地震がきたらもっと恐いなあ」と口ぐちに感想をもらっていました。



▲消防士さんに見守られて

第6回「いつもありがとう」作文コンクール 優秀賞 高学年の部
お母さんありがとう

雲井小学校 5年 宝田 杏優



▲将来は文を書く仕事を

赤ん坊の頃から私は母と二人っきりで暮らしています。小学四年生の終わりまで学童保育があったので、学校が終わってから夕方まで母がむかえに来てくれる間、友達といっしょの時間を楽しく過ごしました。でも、五年生の春から、学童保育に行けなくなり私は、かぎっ子になりました。最初一人である時、不安とさびしさで母の帰りを待ちどおしく感じていました。しかし、日がたつにつれ、不安な気持ちもすれ、宿題をしたりテレビを見たりとひとりで過ごす自由な時間が増えて楽しく感じるようになりました。

そんなある日のことでした。おなかをすいてラーメンでも食べようとなべに火をかけてしまいました。母と一緒の時には、料理の手伝いもしている私でしたが、二人の時は火を使っただけだよ」と日頃からきつく注意されていました。でもその時はテレビに夢中になって火を使っていることをすっかり忘れてしまったのです。それからどれくらい時間が過ぎたのかよく分かりませんが「あっ」と思って台所に走っていった時には、なべの湯がなくなっていて底が真っ赤になって今にも燃え上がりそうでした。母にしかられるという思いで頭の中が真っ白になってしまいました。夕方母が帰ってきて穴のあいたなべを見たたん、私が母との約束をやぶって火を使ったことを知られてしまったのです。

「何でお母さんの言うことを守らんの!!」「火事になったらどうするの!!」と大声で私をしかりました。私はすべて自分が悪いのだから一言、ごめんさいの言葉さえ言えなかったのに、思わず「ひとりにするからや!!お母さんが家にいないのが悪いんや!!」思ってもいない言葉が口から飛び出しました。あっ、ぶたれる。と思っただしゅん間、母は「そやな、ごめんあゆちゃん、お母さんが悪いんやな」とさびしそうな顔で答えました。そして「けがしなくて良かったわ」と。その後いつもと変わらない夕食の時間が始まり、その日は過ぎていきました。それから何日が過ぎたある日のこと、おじに連れられ母の仕事場へ初めて行く事になった私その時目にしたのは、汗とほりにまみれて一生けん命働く母の姿でした。私のためにずっとずっと父親代わりも続けてくれた母の姿です。私を見つけて、にっこりとほほえんでくれた母に私は思わず走りよってだきつきました。何だかすこくうれしくて温かくて自分のわがままさをはずかしく思う気持ちと共に「お母さん大好き、いつもありがとう」と口からでていました。



雲井小学校5年生
宝田 杏優さん

70

朝日小学生新聞が主催し、文部科学省などが後援する第6回「いつもありがとう」作文コンクールに応募した雲井小5年の宝田杏優さんの作品が、優秀賞に選ばれました。この賞は、全国の小学生から応募のあった37,000点の作品の中から高学年、低学年の各部3点ずつ選考されるもので、審査員には人気作家のあさのあつこさんや、漫画家の尼子騷兵衛さんが名を連ねます。

宝田さんは、書くことが大好きで、何かを思いついたら原稿用紙に向かって一気に作文を書きあげます。このコンクールは、担任の先生が夏休みの自主学習として挙げた一つでしたが「いつもありがとう」という募集テーマに、宝田さんの頭には夏前に起きたある出来事がすぐに浮かび上がり、応募を決めました。

自分が好きな「書くこと」と作品に込められた思いが認められたことで「めっちゃ嬉しかった」そうで、彼女はこれからも「書くこと」を楽しんでいきたいと話します。

受賞作品には、一人で自分を育て、守ってくれているお母さんへの素直な思いが表現されています。